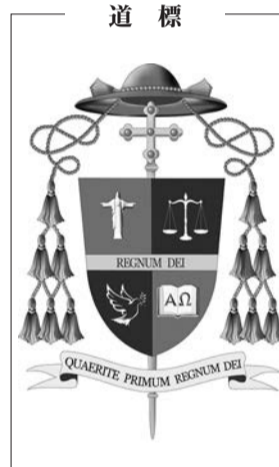




〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



司教の手紙

見よ、世の罪を 取り除く神の小羊を

鹿兒島教区司教 中野裕明

教区の皆さま、主イエスの復活おめでとうございませう。

今年の復活祭は、新型コロナウイルスパンデミックに続き、ロシアによるウクライナ侵略と、世界の平和と秩序を揺るがす地球規模の重大事件が続く中での祝いとなりまし。このような歴史的な変容の中で、主イエスの復活を黙想し、その意味を明かしていくことはとても意義深いことでもあります。今回はこの復活祭の意味についてお話ししたいと思います。

西欧語では、復活祭のことを「パスカ」といいます。これは「主の過越」という意味です。イタリヤ語で、ご復活おめでとうは、「ボンナ パスカ」といいます。この言葉の典拠は出エジプト記12章にあります。

「主はエジプトの地で、モーセとアロンに言われた。(中略)イスラエルの全会衆に告げなさい、全家族ごとに小羊一匹を用意し、(中略)夕暮れに皆集まってそれを屠る。そしてその血を取って小羊を食べる家の入口の二本の柱と鴨居に塗る。その夜のうちに

肉を火で焼き、種なしパンに苦菜を添えて食べる。(中略)それを食べるときは腰の帯を締め、足にサンダルを履き、手に杖をもつて、急いで食べなさい。これが主の過越しである。

その夜、私はエジプトの地を巡り、人から家畜に至るまで、エジプトの地のすべての初子を撃ち、また、エジプトのすべての神々に裁きを行う。わたしは主である。あなたたちの血は、あなたがたの血を見る。わたしはその血を見て、あなたがたのいる所を過ぎ越す。こうして、エジプトの地をわたしが撃つとき、滅ぼす者の災いはあなたたちに及ばない。」(出エジプト記12・1〜13)

ところで、表題の文言、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ1・29)は洗礼者ヨハネが、自分の方へ近づいてくるイエスに向かって発した言葉です。復活なさったイエスの本性を言い当てた表現の一つです。

まず「小羊」ですが、これは先ほど引用した、主の過越しの際に屠られた小羊を想起させます。しか

も、鴨居に塗られた血は十字架上で流されたイエスの血にも相当します。「神の小羊」のイメージですが、それは、イザヤ書にある主の僕の苦難に誘導されま

す。すなわち、「わたしはちが皆、羊の群れのようにさまよひ、それぞれ自らの道に向かつて行った。そのわたしたちすべての過ちを主は彼に負わせられた。彼は虐げられ、苦しめられたが、口を開かなかつた。屠り場に引かれていく小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように口を開かなかつた。」(イザヤ書53・6〜7)

もちろん、イエスの受難と死は、一週間続く過越祭の最中に起こりました。「イエスは言われた。『都のあの人のところへ行ってこう言いなさい、先生が、わたしの際が近づいた。お宅で弟子たちと一緒に過越の食事をすると言っています。弟子たちは命じられたとおりにして、過越の準備をした。』」(マタイ26・17〜19)

次に、「世の罪を取り除く神の小羊」について考察します。ヨハネの黙示録に次のような箇所がありま

す。

玉座におられる方がその右の手に巻物を持っておられた。ところが、この巻物を開くに相応しい者がだれもいませんでした。それで皆悲しみました。ところが、玉座を囲む者たちの間に、「小羊が屠られたような姿で立っていました」(ヨハネの黙示録5・1〜6)。

小羊は進み出て、玉座におられる方の右の手から巻物を受け取りました。周りの者たちは小羊の前にひれ伏し、かれらは新しい歌を歌い始めます。「あなたは巻物を受け取り、その封印を解くのにふさわしい方です。あなたは屠られて、その血により、神のために、あらゆる部族と言葉の違う民、あらゆる部族と国民の中から人々を贖い、彼らを

第2回聖書愛読運動

復活祭から降誕祭まで

4月17日(日)から教区シノドス信仰部会主催の第2回聖書愛読運動がスタートする。

昨年の聖書週間に始められた第1回聖書愛読運動(新約聖書通読コース)には117人がチャレンジし43人が完走した(3月4日)現在、

第2回の愛読運動は「旧約聖書の歴史書編コース」で、復活の主日の4月17日に開始され、主の降誕(12

わたしたちの神に仕える、御国の民、また祭司となさったからです。かれらは地上を支配するでしょう。」さらに、天使は大声で、こう言いました、「屠られた小羊こそ、力、富み、知恵、権威、誉れ、栄光、そして賛美を受けるにふさわしい方です。」さらに続けて、「玉座に座っておられる方と小羊に、賛美、誉れ、栄光、そして力、が、世々限りなくありますように」(同上5・9〜13)

私たちが現在暮らしている社会は、まぎれもなく、

地球規模でモノ、カネ、ヒト、情報が飛び交っている、いわゆるグローバル社会と言われるものです。このような社会では、個人的に発信される善行や悪行も情報として容易に世界中に拡散し伝播します。

勿論、善なる事柄だけが、伝播されればよいのですが、残念ながら悪の伝播の方がはるかに強烈なように思います。もし強欲で権力や財力を持つている少数の人たちがこの世を支配するとしたら、大衆は奴隷状態に置かれてしまうでしょう。

う。それはまさにかつてのエジプトで、奴隷の状態に置かれていたイスラエルの民の状況を想起させます。イスラエルの民は、主の「主の過越」によって自由を得ましたが、神の小羊であるイエスは、私たちが罪と死から、救い出して、永遠の生命を下さいます。これは個人の事情というよりも、民全体のためです。私たち全体に関する事柄なのです。世界規模の疫病、国家間の戦争、それらは皆「世の罪」と言えるでしょう。

愛読運動」実行委員会へフックスすることになってい。フックス番号は099(225)0440。参加申込者には、聖書愛読運動記入表と完走報告(完走連絡のハガキ)が送付される。完走連絡が届けられた参加者には、抽選で賞品を届けること。お問い合わせは、長野宏樹事務局長補佐(TEL080-5209-0152)

参加希望者は、小教区・修道院に届いている申し込み用紙に必要事項を記入し、まとめて教区本部の教区シノドス信仰部会「聖書

経済問題評議会

3月20日(日)午後、2022年度の教区予算を審議する経済問題評議会が教区本部を主会場に、オンラインでの参加も利用して開かれた。この日審議された予算案は、後日開催される役員会の承認を受けることになる。

訃報

池上聖行終身助祭

3月18日(金)未明、徳之島地区教会の終身助祭・池上聖行さんが老衰のため自宅で亡くなった。98歳だった。1951年に奄美大

カトリック教師の会「聖週間黙想会」

日時：4月10日(日)受難の主日 15時〜17時
場所：鹿兒島教区本部2F会議室(＋オンライン参加)
対象：教区内のあらゆる種類の教育施設で働くカトリック信者の教職員、及びカトリックの精神に共鳴する教職員
テーマ：教育者として過越の神秘を生きる
内容：説教と個人黙想。終了後、短い懇談
指導：中野裕明司教
申込：現地参加・オンライン参加の区別を含めて4月9日(土)までに【kago.cath.kyoushi@gmail.com】へ。初めての方は勤務校もお知らせください。その他お問い合わせも同アドレスへ(担当：霧島神父)

教区人事

泉浩二神父(鴨池教会主任司祭)

園長のまま玉里教会主任司祭

李秉徳神父(玉里教会主任司祭)

は、鴨池教会主任司祭 ※着任はいずれも4月24日

島でオーバン神父との出会いで受洗した池上さんはその後、徳之島で伝道士となり、司祭不在時に、祈り、葬儀、結婚式などを担当するなど永年、司祭の助け手として活躍した。そして2010年12月に終身助祭に叙階されていた。



洗礼者ヨハネ小川靖忠神父

1944年4月23日生まれ。

長崎教区の神学生だったが、サンスルピス大神学院在学中に鹿児島教区に移籍し1972年12月3日、ザビエル教会で司祭となった。叙階後はザビエル教会、鴨池教会、玉里教会で助任、1980年に玉里教会主任となった。その後は聖心教会助任の後、1983年にはニューヨークで英語研修の後、マニラの東アジア司牧研修7ヶ月コースへ。コース終了後はラジオベリタスで働いた後、加世田教会主任（1986年）を務め、中央協議会（1993年）に出向した。帰鹿した1996年からは玉里教会、加世田教会、鴨池教会で主任。2006年からは10年、司教総代理を兼務し、2016年YBU（京都）出向までの間に大熊教会、指宿教会、ザビエル教会、紫原教会で主任となった。2020年から学校法人善き牧者学園理事長及び玉里善き牧者幼稚園園長となり現在に至る。

金祝の2人

【司祭叙階記念カードの言葉】
神の力は私の弱さのうちにまっとうされる。

【司祭叙階記念カードの言葉】
私は今日も明日も次の日も歩き続けなければならない。



回心のパウロ郡山健次郎司教

1942年8月20日、奄美大島瀬留

に生まれる。龍南中学校卒業後、大島高校へ進学。1964年にサンスルピス大神学院に入学し、1972年3月20日に聖心教会で司祭に叙階された。司祭叙階後は助任司祭として聖心教会に赴任。その後は鴨池教会助任を務め、1978年4月から種子島教会主任となった。1983年にはニューヨークで英語研修の後、マニラの東アジア司牧研修7ヶ月コースへ進み、1984年3月からザビエル教会助任、その後は吉野教会（1986年）、玉里教会（1994年）、瀬留教会（1996年）、志布志教会（2001年）で主任を務めた。被選司教となったのは2005年12月3日のことで、翌年1月29日に鹿児島司教として着座。引退後は司教館で生活していたが、2019年4月から指宿教会管理者及び白百合幼稚園園長として現在に至る。

このシリーズの第1回では「ともにこの道を」とはどんなものか、第2回では具体的な進め方について、第3回はテキストの具体例を紹介してきましたが、今回はこの「ともにこの道を」を小教区で実行に移す場合の留意点について考えてみたいと思います。

1. 準備段階

「ともにこの道を」を始めるにあたって最も大切なことは、小教区全体の協力が不可欠なことです。つまり全信徒、小教区評議会そして結局は関係者全員が、「ともにこの道を」の考え方を、そして求道者共同体（ひいては班集会）についての考え方をよく理解し、要すれば参加してもらう必要があります。

このことは、教会そのものについて、キリスト者としての生き方、およびカテケジス（信仰教育）についての考え方について発想の転換を必要とします。小教区での理解を得るために次の手順を踏むことを強くお勧めいたします。

- ① 小教区の要理教師（カテキスタ）の会議で、「ともにこの道を」と「求道者共同体」について説明します。
- ② 「進行係（アニメーター）」のチームにセッションの進め方について訓練を行います。（4. 進行係の養成の項で説明します）
- ③ 小教区司祭と要理教師達は、小教区評議会での考え方を説明します。
- ④ 日曜日、ミサ参加者に同じことを求道者共同体の経験を持つている聖職者（または、要理教師、紹介者として求道者）から説明します。

そのときのポイントは次のとおりです。

・自分の信仰を新たにしたい人は誰でも、求道者共同体に加わることができ
ます。
・私たちは信仰の経験を分かち合います。
・求道者は私たちの共同体への贈り物であり、彼等は私たちの回心の助けとなります。

2. リスクと危険

① 「求道者共同体」を作るうえでリスクと危険は、積極的な姿勢をもった同伴者なしでスタートしようとする誘惑です。責任感と熱意にあふれる同伴者を見つけないことが、一番大切なことで、同伴者の根本的な意識改革が必要です。それがないと要理教室というあの

新しい要理

小教区で行うための留意点

教区シノドス推進会事務局 長 野 宏 樹

ともにこの道を（4）

うことです。

- ③ 私たちは求道者に単に洗礼の準備させるだけという危険を犯しがちです。この求道者共同体は先に信仰の恵みを受けたものも、これから洗礼の恵みを受けようとするものも「天の国への旅を助け合い、支え合い、教え合いながら共に歩んでいこう」とするものです。単に洗礼の準備をするだけという考えかたでは求道者の心をむなしくし、彼等の様々な段階と活動を無意味なものとしてしまいます。

④ 進行係の養成
「進行係（アニメーター）」のチームにセッションの進め方について訓練を行います。

- ① 受講生全員で、第6課（あるいは9、23課のいずれか）のテキスト全部を読みます。
- ② 注目させる…
進行係は質問のところで、グループのメンバー全員が質問に答えるように誘います。進行係は必要に応じて質問を繰り返します。ひとつの答えのみに満足してはいけません。メンバーが討議に積極的に参加するように促します。
- ③ セッションを行います
訓練を受ける人の誰かに

は進行方法を改善するのにとでも役立ちます。

- ⑦ 進行するあいだ、霊的な雰囲気形成されましたか。
- ⑧ 進行係はセッションをどのように進めましたか。
— どのところが良かったですか。
- 参加者たちを大人として扱い、自分もその一人として振る舞いましたか。
- 逆に子供を教える教師のようでしたか。
- 進め方が早かったり、逆にあまりゆっくりしませんでしたか。
- テキストに忠実に従いすぎたり、逆に自己の解説や説明を付け加えませんでしたか。
- 進行係がひとりであり、進んでいく「支配」的になりませんでしたか。
- 進行係はすべての人を積極的に参加させましたか。
- ⑨ 参加者たちはどのような参加しましたか。
— ある人があまり長くまたしばしば発言して、ほかの人々の参加するチャンスをつぶさなかつたか。
— 話し合いをしている間、参加者はお互いのことに耳を傾けましたか。
- ⑩ 集いを妨げる要素（音、室温など）はありませんでしたか。

今回をもってこのシリーズは終わりとなりますが、是非この新しい要理「ともにこの道を」使っていただき、信仰と生活の一致がはかれることを心から願っております。

以前の古いシステムに逆戻りする危険性があるからです。

したがって、私たちは求道者が神からの贈り物であり、私たちが彼等を兄弟姉妹として受け入れ、共に歩く準備ができているとき、私たちは彼等にとって価値があるのだということに信じてあげたいです。

- ② もう一つの危険性は、求道者共同体の進行係として旧来の要理教師であれば誰を指名してもよいという誘惑です。求道者共同体の進行係が、求道者共同体で果たさなければならぬ全く異なる役割への根本的な意識改革がなければ、その進行係は求道者共同体を壊すことになりかねないとい

出席することによって達成することができず、福音の言葉を説くことによつて、私たちは復活された主を私達の中に来て下さるようにお招きいたします。彼は新しくなった神のみことばそのものです。彼は私たちの中に住みたいのです。したがって、求道者共同体は、私達がキリストと彼の癒しを経験することができ、家庭であると言えます。

私たちは祈りの方法として聖書を使用します。即ち主に心を傾ける事であつて、彼について話すのではなく、彼に祈る事、私たちは、マリアがベタニアの家でイエスの足元に座り、彼の言うことを聞いたように、彼の言うことを聞きたいのです。

④ 進行係は、セッションの終わりに、全員で自発的に祈りをするように依頼し、終わってから聖歌を歌います。

- ⑤ グループ全員で、セッションを評価します。

なお、テキストはザビエル書院で取り扱っております。（問合せ先：鹿児島教区本部事務局 080-1520-910152 長野宏樹）

郡山司教、小川神父の金祝を祝う

教区の日(2月25日)のミサで

鹿児島使徒座知牧区が司教区に昇格した日(1955年2月25日)を「教区の日」と定めている中野裕明司教は、記念日に当たる2月25日(金)夜、鹿児島カトリック・ザビエル記念聖堂で「感謝のミサ」をささげた。



午後6時から始められたミサには、コロナウイルス感染症予防のため小教区と修道会の代表者2人ずつが参列を許され、ミサを司式した中野司教と10人を超える司祭・助祭と共に教区の歴史を振り返り、教区の基礎を築いてくれた先人たちへの感謝と今年中に金祝を迎える聖職者のために祈りをささげた。

ヨハネ福音書の朗読後に説教した中野司教は、教区の歴史を長崎教区との関係性から説明、また年内に司祭叙階50周年(金祝)を迎える郡山健次郎司教(指宿教会)と小川靖忠神父(教区本部)の人となりに触れた。金祝を迎える2人が司祭叙階記念のカードに選んだ言葉を紹介しながら、2人の歩みをその功績と共に紹介した司教は、「1970年代に青春を過ごした2人には改革の精神があり、これまでも移り変わる社会に対応しながら教区のために働いてくれた。これからも教区のために元気に働いて欲しい」とメッセージを送った。

イエス様が納められた墓を見に来たマグダラのマリアともう1人のマリアに主の天使は「あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なされたのだ」と告げました(マタイ28・1参照、6a)。

ここで「復活なされた」と訳された言葉をヘブライ語で考えるとイザヤの預言が思い起こされます。そこには「死者が再び生きることがなく/死霊が再び立ち上がることはありません」とあります(イザヤ26・14a)。

ここで「復活なされた」と訳された言葉をヘブライ語で考えるとイザヤの預言が思い起こされます。そこには「死者が再び生きることがなく/死霊が再び立ち上がることはありません」とあります(イザヤ26・14a)。

「復活のメッセージ」

「復活のメッセージ」

「復活のメッセージ」

「復活のメッセージ」

+KABAYAN SEKSYON+

PAANYAYA NI PAPA FRANCISCO SA KUWARESMA

Sa mensaheng pang-Kuwaresma ni Papa Francisco sa kanyang pagiging Santo Papa, binanggit niya: "Nais kong mag-alay ng ilang mga bagay na maaaring mapagnilayan sa ating daan ng pagbabalik-loob... Ang mga kaisipang ito ay mula sa inspirasyon ni San Pablo: "Alam ninyo ang kagandahang-loob ni Hesukristo na ating Panginoon." Bagamat mayaman, nagpakadukha siya para sa inyo upang yumaman kayo sa kanyang karukhaan" (2 Cor 8.9)."

Ang bahaging ito mula sa Banal na Kasulatan ay "nagpapakita sa atin kung paano kumikilos ang Diyos. Hindi siya nakikilala sa makamundong karangyaan at yaman, kundi sa kahinaan at karukhaan.

Pinili ni Kristo na maging dukha; dumating siya sa piling natin at naging malapit sa bawat isa sa atin; isinantabi niya ang kanyang kaluwalhatian at hinubad niya ang kanyang sarili, upang siya'y maging katulad natin sa lahat ng bagay maliban sa pagkakasala. Tunay ngang ang pagiging tao ng Diyos ay isang dakilang hiwaga!"

Ipinaliwanag ni Papa Francisco ang pagpili ni Kristo sa karukhaan: "Ang dahilan para sa lahat ng ito ay ang kanyang pag-ibig, pag-ibig na isang grasya, kabutihang-loob, paghahangad na maging malapit, isang pag-ibig na hindi nag-aalinlangan na isakripisyo ang sarili para sa minamahal.

Binubuwag ng pag-ibig ang mga pader at pinagbubuklod ang mga nagkakalayo. Ginawa ito ng Diyos sa atin."

Sa Kuwaresma at sa lahat ng panahon inaanyaya Han tayo ni Papa Francisco sa pakikipagkapatiran ito, lalung lalo na kasama ng mga dukha ng Diyos.

Hilingin natin ang Banal na Espiritu na ibigay sa atin ang kababaang-loob para matularan at magawa natin ang ginawa ng Panginoon Hesus noong siya'y nandidito pa sa mundo. Ang mga bakas ng kanyang kadakilaan ay nanatili pa rin sa Simbahan hanggang sa ngayon at itinuturo din sa ating lahat.

Paglalakbay Kasama Ang Mga Dukha ng Diyos (Fr. Dino Orolfo)

働いた日々を振り返ると共に、今も続けている毎日のミサ配信やブログを話題にしているインターネットの世界を利用してこれからも宣教を続けたい」と心意気を語った。

この日のミサは、桃菌淳一郎助祭が養成した有志の聖歌隊がグレゴリオ聖歌を披露し、記念の日を飾ってくれた。

- 聖書愛読運動「新約聖書コース」完走者**
- 蘇畑ツギ子さん(大熊小教区)、郡山健次郎司教
- (指宿教会)、河野博さん(鴨池教会)、日崎悦子さん(加世田教会)、中橋美津子さん(出水教会)、直泰江さん(谷山教会)、鴨川いづ子(修道女(純心聖母会川内天辰修道院)、中野健喜さん(加世田教会)、岩崎富子(修道女(純心聖母会鹿児島修道院)、吉田和代さん(大熊小教区)、吉原俊美さん(谷山教会)、長井ハスミさん(吉野教会)、池上利男助祭(母間教会)、市来房枝さん(国分教会)
- ※3月10日現在

日	月	日	内容
2	土	2	中野裕明司教叙階記念(1978年) 四旬節第5主日
3	日	3	レヒナ神父命日(2015年)
4	月	4	中野アカデミー・教区本部・19時
6	水	6	受難の主日(枝の主日)
10	日	10	カトリック教師の会・教区本部・15時
12	火	12	聖香油ミサ・ザビエル教会・11時
13	水	13	コンベンツス・教区本部・13時
14	木	14	中野アカデミー・教区本部・19時
15	金	15	久保芳一神父叙階記念(1975年)
15	金	15	聖木曜日(主の晩さん)
16	土	16	聖金曜日(主の受難、大斎・小斎)
16	土	16	聖土曜日
17	日	17	正義と平和協議会・教区本部・13時
17	日	17	復活の主日
20	水	20	中野アカデミー・教区本部・19時
22	金	22	安神父叙階記念(2006年)
24	日	24	復活節第2主日(神のいつくしみの主日)
24	日	24	オリーブの会及び共にこの道・教区本部・14時
24	日	24	レジオマリエ鹿児島コミチウムのアチエス・ザビエル教会・13時
25	月	25	聖マルコ福音記者
25	月	25	マイエル神父命日(1978年)
27	水	27	中野アカデミー・教区本部・19時
28	木	28	ハンマ神父叙階記念(1963年)
29	金	29	橋口啓悟神父叙階記念(1996年)
30	土	30	谷村達郎神父命日(2018年)

【司教日程】 1日大口明光学園、6日中野アカデミー、7日大口明光学園、12日聖香油ミサ及びコンベンツス、13日中野アカデミー、20日中野アカデミー、21日終身助祭会議、24日レジオマリエ、27日中野アカデミー

祈りの意向

【祈祷の使徒会】
教皇 医療従事者
日本の教会 家庭

おしゃれなベンチを設置
カトリック唐湊墓地

カトリック唐湊墓地内の司祭墓地前広場に石造りのおしゃれなベンチが設置された。これは納骨堂建設を請け負ってくれた前迫石材さんの好意によるもの。前迫石材さんはこれまでもベンチやテーブルセットを寄贈してくれており、墓地の雰囲気明るくしてくれている。



ロシア侵攻を受け苦しむ

ウクライナのチェルニヒウからの記録 (3月4日)

北大西洋条約機構・欧州連合への加入を探るウクライナに、同国を自国勢力圏にとどめようとするロシアが侵攻を開始し、多くの市民が犠牲となっている。ウクライナには鹿兒島教区で働いていたレデンプトル宣教修道女会のシスターヒルデガルドが働いた修道院があり、日に日に激化する現地の情報がドイツ経由で入ってきている。教区報では、レデンプトル宣教修道女会のシスターモニカ、シスター澤の協力を得て、現地の様子を紹介し、教区の皆さんの祈りと支援をお願いしたい。

ウクライナの平和のために祈ってください

レデンプトル会のチェルニヒウ修道院は、その地下室に保護を求めた人で溢れています。人々は非常に疲れている様子ですが、ゆるしの秘跡を受けることを望んでいます。司祭も修道者もそんな人たちに心を配っています。

3人のレデンプトル会の神父が、リヴィウから応援に来て、レデンプトル宣教修道女会の修道院に住んでいます。実はシスターたちは数日前にここよりも安全なリヴィウの修道院に引き揚げたのです。このマリアの誕生教会には、避難できる地下室がありません。ですからサイレンが鳴ると、その場で安全な場所に隠れなければなりません。

教会は朝9時から夕方外出禁止の時間まで開いていません。今日は、癌にかかった子供のための病院で祈りの集いをし、激しい爆撃に遭った付近の家族を訪問してきました。私たちは幸いにまだ生きていますが、今も近くで爆発音が聞こえています。

チェルニヒウは今日取り囲まれています。私たちのために祈ってください。私たちは神が許してくださる限り

「ウクライナ危機人道支援」緊急募金

2月24日から始まったロシアによるウクライナへの大規模軍事侵攻により、これまでに600人近い市民が犠牲となり、100万人に上る人々が隣国に避難していると言われてる。

カリタスジャパンでは、「ウクライナ危機人道支援」緊急募金を開始。
郵便振替：00170-5-95979
加入者名：宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン
*記入欄に「ウクライナ危機支援」と明記してください。



り、人々のために奉仕するつもりでいます。
(報告：ウクライナ・レデンプトル会)

旧司教館で祈りの集い

3月14日(月)夜、鹿兒島市唐湊にある旧司教館の庭でウクライナの平和を願う集いが開かれた。これはレデンプトル宣教修道女会の呼び

かけて実施されたもので、信者だけでなく一般の市民など30人が集まり、現地の様子を聞き、平和のために祈りをささげた。
▼諸宗教の有志者が平和行進 県内諸宗教のリーダーや信者たち80人余りが3月6日(日)、ロシアのウクライナ侵攻中止を訴えるため、プラカードを持って鹿兒島市天文館地区を練り歩いた。一行は途、ザビエル教会や西本願寺、鹿兒島別院、照国神社などを巡り、平和の祈りをささげるなどした。
※鹿兒島教区でも、レデンプトル会を通して現地を支援する募金の検討を始めることにしている。

KJP (鹿兒島正義と平和協議会) 通信 4月号

人はなぜ戦争を?

ヨハネ・パウロ2世は広島での平和スピーチで「戦争は人間のしわざです」と訴えました。しかしなぜ人は戦争をするのでしょうか。私たちが一般人はもとより、各国政府だつて戦争をしたいとは思っていません。現在、東アジアでは、中国が軍事力と経済力を拡大し、覇権を強めようとしている「現実」があります。一方、もし戦争になれば、ロシアのウクライナ侵攻に見られるように、多くの人が理不尽に殺され、体も心も家族も地域もめちゃくちゃに



要理

今回は妹夫婦が外国に転勤が決まった時のお話です。外国に引越すことは妹にとつてあまり喜べることではありませんが、赤ちゃんがお腹の中に愛せるだろうか、言葉が通じないストレスから子供たちに辛く当たってしまうかもしれないと悩んでいたようです。それから数年後、日本に戻ってきた時に妹は「二人を平等に愛するなんて絶対できない」って思っていたけれど不思議とできちゃうものね」とさらっと言いました。私はその言葉を聞いてどうしてだろうと思いました。しかし少し経ってから頭にふと浮かびました。「もしかししたら『子供を愛する』って自分を中心に考えるけれど、本当は子供が自分から愛する気持ちを引き出してくれているのではないか」と気付いたのです。

愛はみんなに平等です

みなさんは自分が良い子だから、成績が良いから、くが出来るから大切にされると思っていますか？ オムツを替えるお母さんの話を思い出してください。愛とは条件が付きません。なぜならみなさんが両親から愛する気持ちを引き出しているからです。ときどき「お父ちゃんばかり、妹ばかり可愛がる」と思うことがあるかもしれませんが、しかし兄弟姉妹は何人いても平等に愛されています。それぞれに違いがあつたとしてもみなさん一人ひとりとはご両親から愛する気持ちを引き出せるほど大切な存在なのです。何よりも神様はみなさんを愛おしく思われています。なぜなら「あなた(神様は)、わたしの内臓を造り/母の胎内にわたしを組み立ててくださった。」とあるからです。(詩編139・13)。



破壊される悲惨な「現実」もあります。戦争で利益を得るのはごく一部の国際金融資本家で、彼らによって国の機関やメディアや民衆が複雑巧妙に誘導され戦争に導かれていくと考えられています。開戦前にまぎれ動き出すのは軍隊ではなく「広告代理店」です。政府は攻撃を正当化するために、政府広報や広告代理店を使ってキャンペーンを行います。例えば、イラク戦争の時、大量殺りく兵器があるとか、イラクがアルカイダを支援しているなどという虚偽報道があり

ました。6年後に米政府は事実と違つたと認めましたが、すでに何十万人ものイラク国民が犠牲になった後でした。開戦前にはヨハネ・パウロ2世もイラクと米国に特使を送り、戦争回避を訴えました。が、米政府は聴く耳を持たず攻撃に踏み切りました。今後の戦争は「無人攻撃機による戦争」に変化していくでしょう。去年8月にアフガニスタンで米軍のドローン(無人攻撃機)が子供7人を含む10人の民間人を誤爆し殺害しました。

米軍のプレデター(捕食者)やリーパー(死神)が有名ですが、無人攻撃機は高度上空から標的を狙い、何千キロも離れた安全な場所から遠隔操作で攻撃できるので、味方の兵士が傷つかずに済みす。だから各国政府は無人攻撃機を配備したいと考えています。鹿兒島県の鹿屋航空基地にも、7、8機の無人偵察機の展開が検討されています。一方、発射から着弾までの10秒間にたまたま接近した民間人が巻き込まれる危険があります。私たちは「戦争を知らない子供たち」ではありませんが、イラク戦争、ウクライナ侵攻などが起きた同じ地球上の空気を吸っているからです。開戦世論が高まりピークに達したら、政府は国民の承認を得たと見なし、攻撃に踏み切ります。そして意外にも政権への支持は高まり、各界も戦争容認の世論に流され

ます。私たちにできるのはそんな作られた世論に迎合せず加担せず、一人ひとりが神さまに耳を傾け神さまとつながって生きる事です。それが戦争を抑止する力になります。米軍と自衛隊の一体化が進む今、憲法改正で自衛隊の前線派遣が現実になれば、最初に傷つき悲しむのは、末端の自衛官とその家族です。自己犠牲精神の高い彼らの体だけでなく心と魂を守るためにも、安易な改憲は避けるべきです。私たちが対話を忘れ、闘争本能と防衛本能を過剰に煽られて、拳を突き上げ声高に叫ぶとき、私たちの心は神さまを忘れてしまっています。(谷山教会 本村裕之)